

国語 第2学年 ことばについて考えよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、音や動き、感じを表す言葉を集めて、身近な出来事を詳しく書く。擬音語や擬態語を文に飾りとして足す前に、どの様子を伝えたいのかと結び付けて選ぶ。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「ことばについて考えよう」 教材名「ようすをあらわすことば」

2 単元の目標

身近な音や動き、様子を表す語句を増やし、文の中で使える。語と語の続き方に気を付け、様子が分かるように自分の文を書き表せる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①身近な音や動き、様子を表す語句を増やし、文の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)オ
〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、語と語の続き方に気を付け、様子が分かるように自分の文を書き表している。(B(1)ウ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

音や動き、感じを表す言葉を集めて、身近な出来事を詳しく書く。擬音語や擬態語を文に飾りとして足す前に、どの様子を伝えたいのかと結び付けて選ぶ。学習指導要領のB(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案ではB(1)ウを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

教師の動作や身近な音を言葉にして比べる。誰が何をした文を先に確かめ、様子の言葉をどこに入れるか声に出して試す。音が聞こえにくい児童には動きや視覚の例も用意する。おおむね満足できる状況は、語と語の続き方に気を付け、様子が分かるように自分の文を書き表しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

第1次 第1時：○身近な動きや音を表す言葉を集め、表す様子の違いを話す。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時：○自分の経験を選び、様子の言葉を入れた短い文を書く。 評価：知①（語句や内容の整理）

第2次 第3時（本時）：○文を読み合い、友達が思い浮かべた様子を聞いて言葉を選び直す。 評価：思①（発言・学習記録）

第3次 第4時：○文カードを仕上げ、様子の言葉を加えて伝わるようになったことを話す。 評価：態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導 (3/4)

(1) 本時の目標

語と語の続き方に気を付け、様子が分かるように自分の文を書き表せる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「この言葉を入れると、どんな動きや音が伝わりますか。自分が伝えたい様子に合っていますか」

【めあて】音や動き、感じを表す言葉を集めて、身近な出来事を詳しく書く。

予想される児童の反応：・ゆっくりした動きと急いだ動きでは言葉が異なる。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「この言葉を入れると、どんな動きや音が伝わりますか。自分が伝えたい様子に合っていますか」

自分が見た音や動きを思い出し、様子を表す語句を選んで文を書く。友達に読んでもらい、どんな様子が伝わったか聞く。語と語の続き方を声に出して確かめ、伝えなかった様子に合う文へ直す。

予想される児童の反応：・ゆっくりした動きと急いだ動きでは言葉が異なる。

・同じ雨でも音の感じが異なる。

・言葉を入れる場所を変えると、何の様子か分かりにくくなる。

指導上の留意点：教師の動作や身近な音を言葉にして比べる。誰が何をした文を先に確かめ、様子の言葉をどこに入れるか声に出して試す。音が聞こえにくい児童には動きや視覚の例も用意する。

想定する難しさ：思い付いた音の言葉の意味を考えずに並べる。何の様子か伝わらない文になる。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 語と語の続き方に気を付け、様子が分かるように自分の文を書き表している。(様子を表す文・読み返して直した箇所)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・言葉を入れる場所を変えると、何の様子か分かりにくくなる。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この言葉を入れると、どんな動きや音が伝わりますか。自分が伝えたい様子に合っていますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

